※本会議の内容に関しては、現時点の予測に基づく将来の見通しを述べる場合がございますが、これらは全てリスク並びに不確実性を伴っております。実際の結果が見通しと異なる場合があることをあらかじめご了承ください。

01 決算概要

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

決算業績の概観

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

連結業績

- 売上高：**1,169億円**
  4期連続で1Q過去最高を更新
- 営業利益：**110億円**
  計測中国回復遅れ、成長投資増により減益

セグメント別

- 計測：**増収**減益/中国回復遅れ、成長投資増
- 医用：**増収増益**/北米回復、中国回復遅れ
- 産業：**増収増益**/半導体向けTMP大幅増加
- 航空：**増収増益**/防衛・民間航空ともに大幅増加

重点機種

- 計測重点機種
  中国を除き、海外の製薬、臨床分野を中心に伸長、
  合計で3%成長(中国を除けば9%増)
- 産業/ターボ分子ポンプ（TMP）
  半導体向けが大幅に増加し**27%成長**

地域別

全社：中国を除き増収
- 日本：計測、産業、航空で増加
- 北米：全セグメントで増加
- 欧州：計測、医用、産業で増加
- 中国：市況回復遅れで、計測と医用が厳しく推移
- その他のアジア：全セグメントで増加

*計測重点機種3機種：LC（液体クロマトグラフ）、MS（質量分析システム）、GC（ガスクロマトグラフ）

SHIMADZU

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

皆さま、こんにちは。島津製作所CFOの渡邊です。

本日はお忙しいところ、当社2025年3月期第1四半期決算説明会にご参加いただきまして
まことにありがとうございます。

では、決算概要の説明を進めさせていただきます。まず、決算業績の概観です。

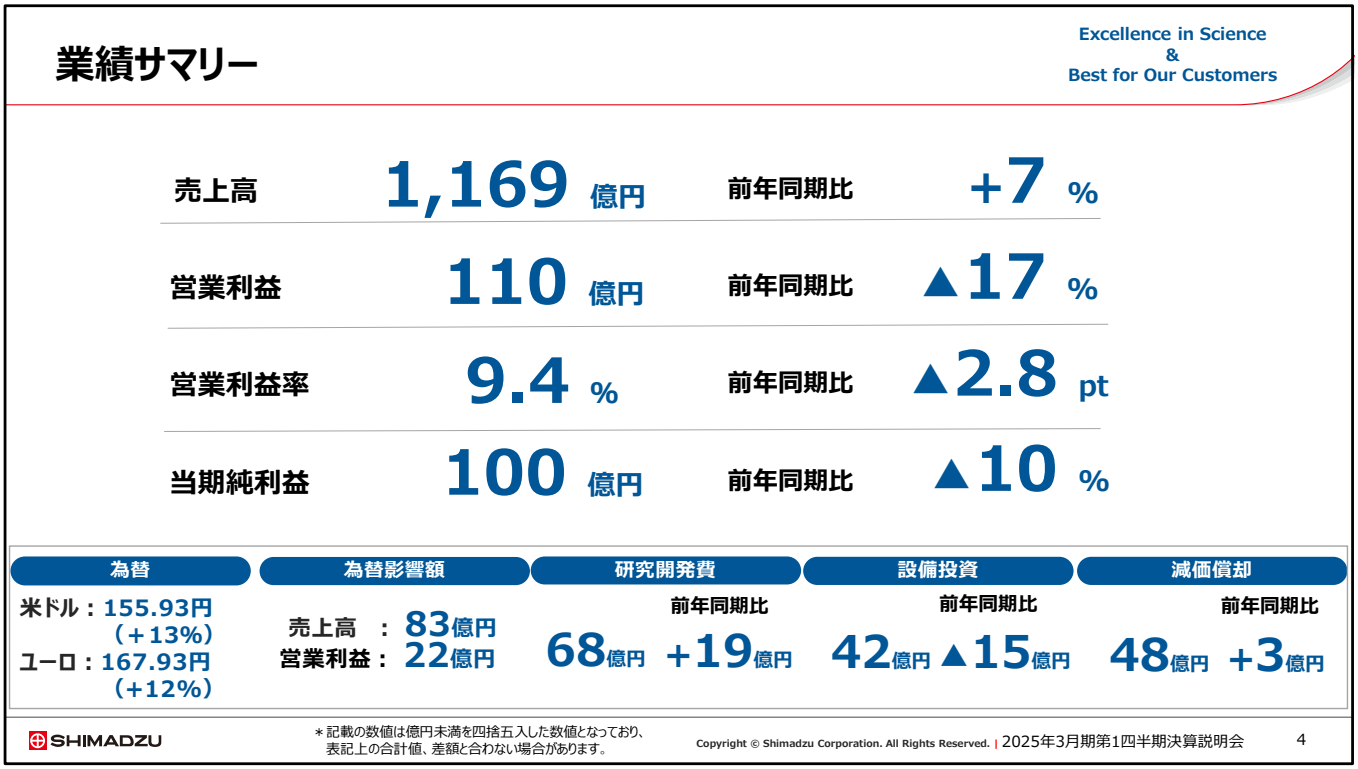
連結の売上高は、1,169億円と、4期連続で過去最高を更新しました。
営業利益は、計測中国の回復遅れ、成長投資増などにより、
前期から減益となりました。

セグメント別では、計測が増収減益、医用・産業・航空は増収増益です。

計測重点機種である液体クロマトグラフ、質量分析システム、ガスクロマトグラフが、
海外の製薬、臨床分野を中心に伸長し、3機種合計で前年同期から売上が３％増加
しました。一けた後半のマイナスとなった中国の影響を除けば、9%成長しております。

また、産業のターボ分子ポンプは、半導体向けが大幅に増加し、前年から27%成長しました。

地域別では、中国を除いた地域で増加しております。



業績サマリーです。

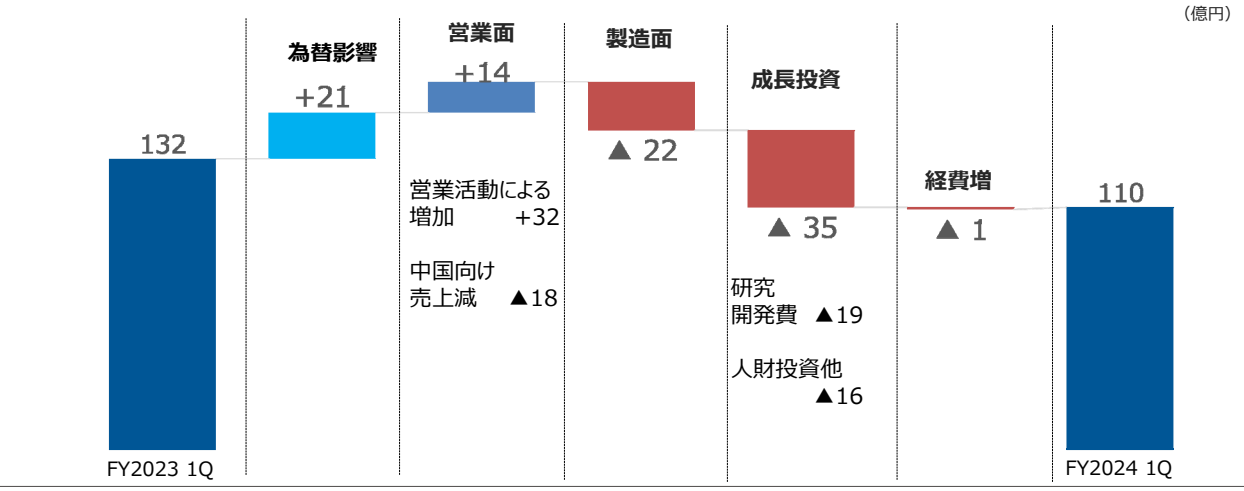
売上高は、1,169 億円で前年比7%増加となりました。
営業利益は、110 億円で前年比17%減少、
営業利益率は、9.4%で前年から2.8ポイント悪化です。

親会社株主に帰属する当期純利益は100億円となり、前年同期比10%減少です。

なお、将来に向けた成長投資として、研究開発費は68億円、前年同期比で19億円増加しており、
その結果、売上高研究開発比率は5.9%となっております。

連結／営業利益増減要因

■ 営業面　：付加価値訴求（価格改正）で実質売上減影響をカバー　+14億円
■ 製造面　：生産抑制による工場収支影響など　▲22億円
■ 成長投資　：研究開発費、人的投資、M&A、DXなどの成長投資　▲35億円



＊記載の数値は億円未満を四捨五入した数値となっており、表記上の合計値、差額と合わない場合があります。
Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

続きまして、営業利益増減要因についてご説明します。

為替による影響は、21億円の押し上げとなりました。

営業面では、中国向け売上減による粗利の減少18億円に対し、営業活動による増加が32億円となり、全体では14億円のプラスとなりました。
営業活動による増加の内訳は、製品の付加価値訴求（価格改正）による粗利の増加と、中国以外の地域の売上増加による粗利の増加分、この2つで構成されています。

一方、製造面では、主に中国向け生産抑制による工場収支と、部材高騰などの影響により、22億円の押し下げとなりました。

成長投資は、研究開発費19億円、人財投資13億円に加え、
DX、M&Aの費用などで前期から35億円増加しております。
対して経費は抑制しており、前期から1億円増加にとどまりました。

セグメント別損益

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

■ 計測、産業、航空の売上高が過去最高
■ 産業、航空の営業利益が過去最高

計測／売上高（過去最高）
・重点機種は製薬・臨床で増加

医用／売上高
・注力している血管撮影システムが増加

産業／売上高（過去最高）
・半導体向けTMPが大幅に増加

航空／売上高（過去最高）
・防衛、民航ともに大幅に増加

計測／営業利益
・中国が大幅減益
・成長投資増加

医用／営業利益
・成長投資増加

産業／営業利益（過去最高）
・増収効果に加え、高利益率の半導体向けTMP比率増加

航空／営業利益（過去最高）
・増収効果に加え、採算性改善が継続

単位 億円	売上高					営業利益					営業利益率			
	FY2022	FY2023	FY2024	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	FY2022	FY2023	FY2024	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	FY2022	FY2023	FY2024	前年同期比 増減
計測機器	618	714	738	+24	+3%	84	108	73	▲35	▲32%	13.5%	15.2%	9.9%	▲5.2pt
医用機器	164	144	155	+11	+7%	2	0	1	+0	+97%	1.5%	0.3%	0.5%	+0.2pt
産業機器	146	147	175	+28	+19%	13	19	27	+7	+37%	8.9%	13.2%	15.2%	+1.9pt
航空機器	48	62	87	+25	+40%	1	6	13	+7	+124%	2.4%	9.5%	15.2%	+5.7pt
その他	10	25	15	▲11	▲42%	▲1	2	▲2	▲4	-	▲3.4%	5.7%	▲8.6%	▲14.3pt
調整額	-	-		-	-	▲5	▲3	▲3	-	-	-	-	-	-
合計	986	1,092	1,169	+77	+7%	94	132	110	▲23	▲17%	9.6%	12.1%	9.4%	▲2.8pt

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

続きましては、セグメント別損益についてご説明します。

売上高は、主要４セグメントで増収となりました。計測、産業、航空が過去最高を更新しており、特に航空は対前年40%増と大幅に増加しております。

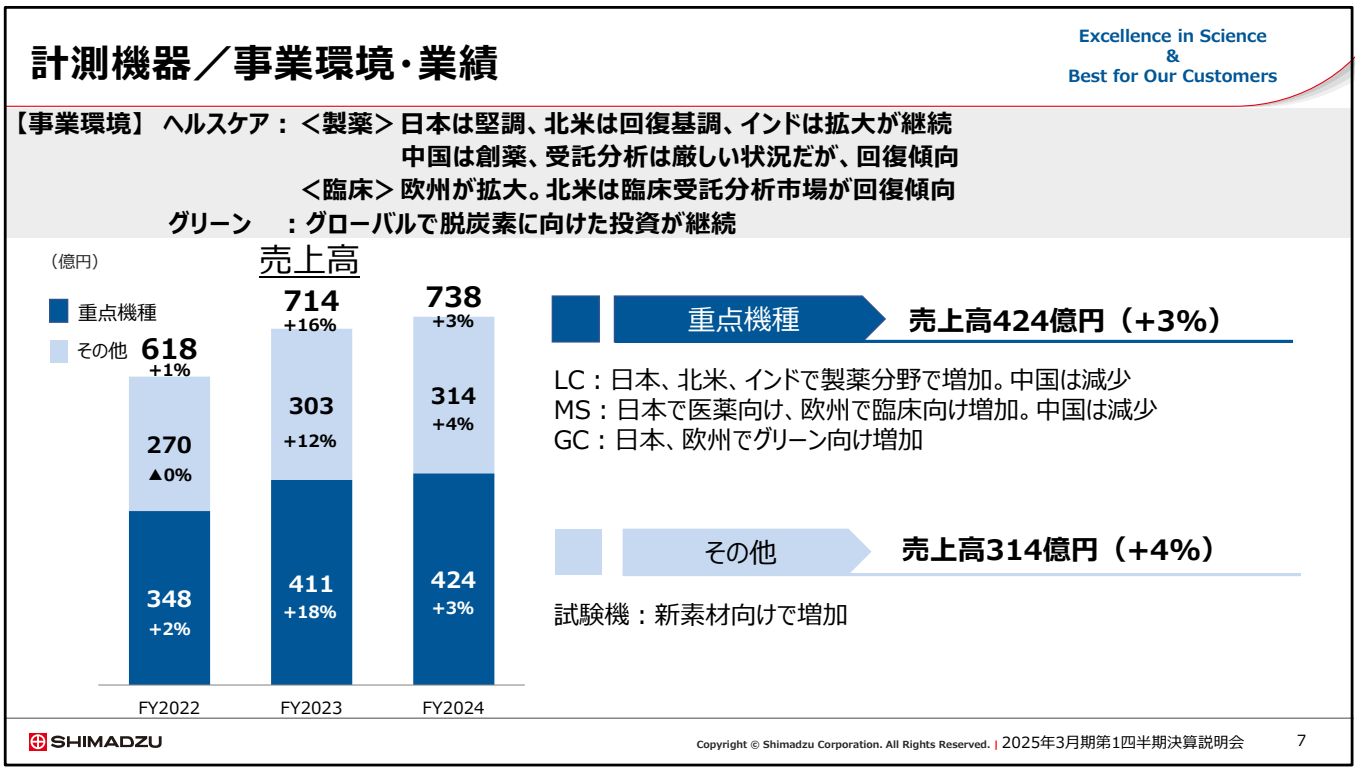
営業利益は、計測が減益、医用、産業、航空が増益となりました。
産業と航空については、第１四半期過去最高を更新しております。

計測機器は、重点機種が増加しましたが、中国の影響と成長投資により、減益となりました。

医用機器は血管撮影システムによる増加が、成長投資の増加によるマイナス影響を上回っております。

産業機器は、半導体製造装置向けTMPの増加を主要因として、増収増益となりました。

航空機器は、防衛、民間航空ともに需要増加と採算性の改善により、増益となりました。



続きましてセグメントごとに、事業環境と業績をご説明します。まずは計測機器です。

売上高は、738億円で前年同期比24億円増加しプラス3%となりました。
重点機種の売上高は、424億円で前年同期比13億円の増加、プラス3%、
また、その他機種の売上高は、314億円で前年同期比11億円の増加、プラス4%となりました。
試験機が、新素材開発向けに増加したことが主な要因です。

重点機種の液体クロマトグラフは、主力市場である製薬分野で、日本はジェネリックを中心に拡大、
北米はメガファーマを中心に投資が回復し、インドは自国生産強化の流れなどにより拡大しました。
一方中国は、米国からのパイプラインが細っており、CROを中心に設備投資が低迷し、
厳しい状況が続いております。しかしながら、前四半期と比較すると受注が回復しており、
底を打ったのではないか、と云う期待感がございます。
中国の事業環境に関しては、後ほどご説明します。

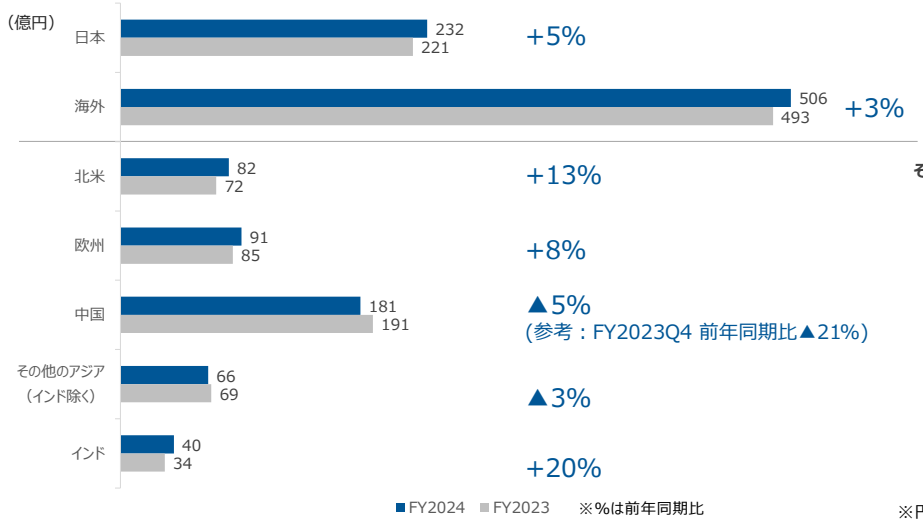
質量分析システムは、日本、欧州の臨床市場で売上が増加しましたが、中国では減少しました。

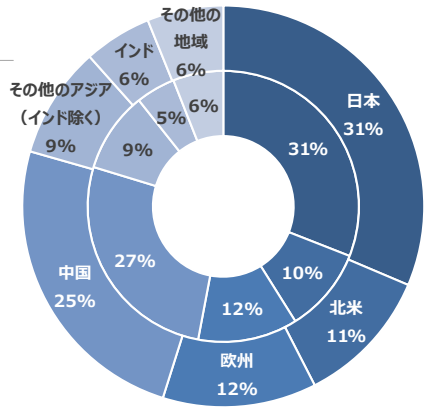
ガスクロマトグラフは、グローバルで脱炭素に向けた投資が継続しており、日本と欧州での需要増加に繋がっています。

計測機器／地域別売上高

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

■ 日本：重点機種が11%増と好調。新素材向けに試験機が増加
■ 海外：北米が製薬と特定顧客向けで増、インドは好調継続、中国と前年特需があったその他のアジア（韓国）が軟調





※円グラフ外側はFY2024実績、内側はFY2023実績を示す

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

続きまして、計測の地域別売上高についてご説明いたします。

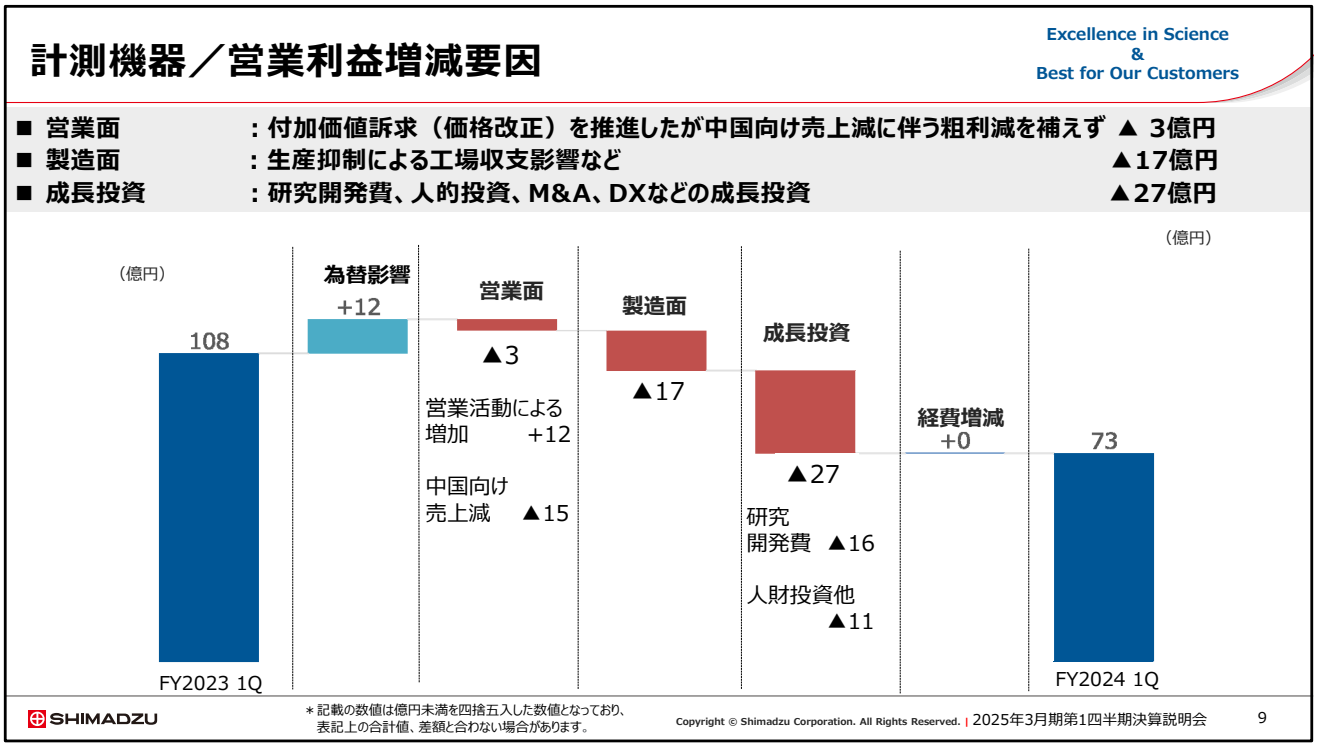
日本は、製薬向けに液体クロマトグラフ・質量分析システムが増加したことや、エネルギー開発を中心に幅広い分野でガスクロマトグラフが増加したことにより、重点機種が11%増と好調に推移しました。試験機も新素材向けに増加し、全体で5%増加です。

海外全体では、北米とインドが牽引しました。
北米は、製薬設備投資がメガファーマを中心に回復基調であり、13%伸びております。
また、特定顧客向けのLCの標準採用需要が回復したことも、寄与しております。

欧州は、臨床向けに液体クロマトグラフ、質量分析システムが増加しました。

中国は、製薬分野で厳しい事業環境が継続していますが、
21%減少した前四半期と比較すると、減少幅は大きく改善し、マイナス5%です。

その他のアジアは、韓国で前年、官庁向けに環境分析の特需があった反動で減少しましたが、
インドは製薬向けが好調で、20%増と最も大きく伸びております。



計測事業の営業利益増減要因についてご説明します。

為替影響は、12億円の押し上げとなりました。

営業面では、製品の付加価値訴求（価格改正）を推進しましたが、主に中国向け売上減による粗利の減少15億円などにより、3億円のマイナスとなりました。

一方、製造面では、生産抑制などによる工場収支及び、部材高騰影響により
17 億円の押し下げとなりました。
生産抑制は、23年度４Qの中国における需要が大幅に低下したことを受け、
１Qの生産を控えたことによります。１Qの受注は回復しておりますので、2Q以降は、生産増に転じると予想しております。

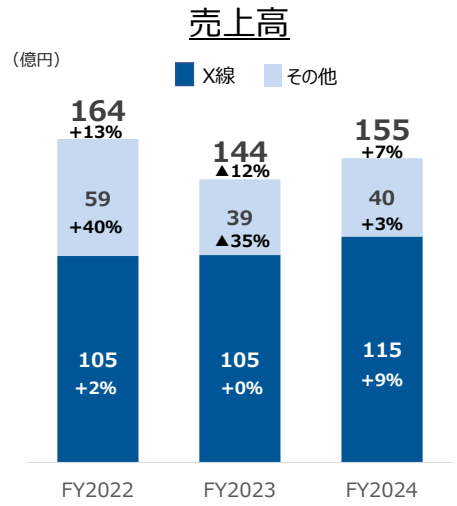
成長投資は、研究開発費16 億円、人財投資10億円に加え、
DXやM&Aの費用などで前期から27億円増加しております。

経費は、抑制しており前年からの増減はありませんでした。

医用機器／事業環境・業績

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

【事業環境】 北米は回復基調、日本は想定より回復遅れ、中国は腐敗防止運動や政府支援策実施前の買控え等で低調



X線　売上高115億円（+9%）

一般撮影：パワーアシスト機能やシンプルな操作により省力化を実現した新製品が増加
X線TV：北米で近接型が増加。日本、中国で減少
血管撮影システム：低被ばくで高画質が評価されグローバルで増加

その他　売上高40億円（+3%）

日本、北米でサービス向け部品が増加

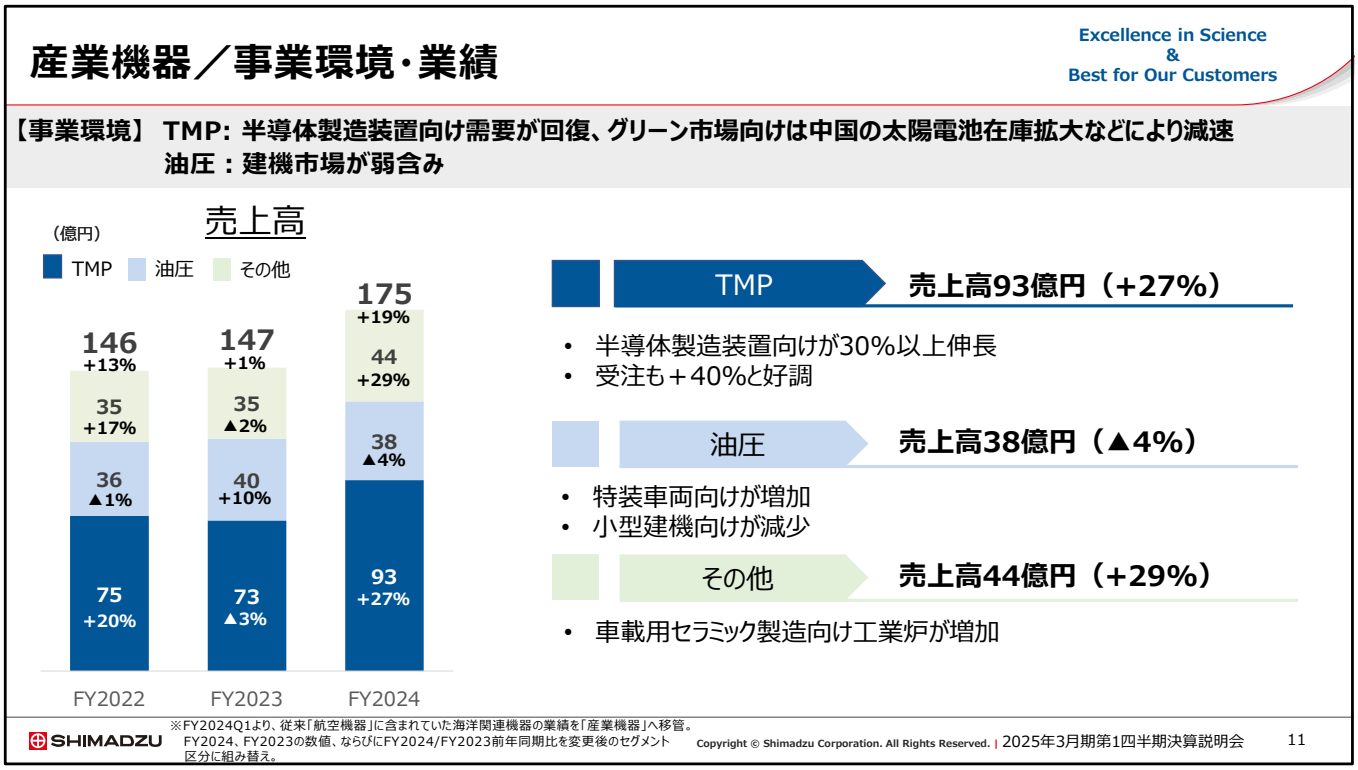
Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

続きまして医用機器です。

事業環境の観点からは、北米は手術件数の増加などにより、市場は回復基調ですが、
日本は想定よりも回復が遅れています。また中国は、腐敗防止運動や政府支援策実施前の
買い控えにより、厳しい状況が続きました。

売上高は155億円で前年同期比11億円増加、前年からプラス7%となりました。
一般撮影装置は、新製品が増加、X線TVは、北米で近接型が増加、
血管撮影システムは、AIによる画像処理技術を搭載した新製品(Trinias)の販売が日本で増え、
海外でも増加しており、全体で9%の増加です。

その他機種の売上高は40億円、主にサービス向け部品が増加しプラス３%となりました。



続きまして産業機器です。

ターボ分子ポンプ（TMP）の売上は、半導体製造装置向けが約30%増加し、
前年同期から20億円増加、プラス27%と、大きく伸びております。
なお、受注も40%増と好調で、第2四半期以降も好調が継続する見通しです

油圧機器の売上高は、国内外で小型建機向けが減少し、前年同期から2億円減少、
マイナス4%です。

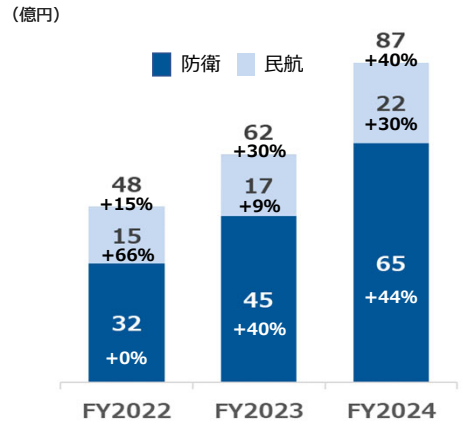
またその他機種の売上高は、日本と中国で、車載用セラミックス向け工業炉が増加し、
前年同期から9億円増加、プラス29%となりました。

航空機／事業環境・業績

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

【事業環境】 防衛：政府の防衛力強化方針により需要が拡大
民航：航空旅客需要の増加に伴い、民間航空機向け搭載品や航空会社向け補用部品の需要が拡大

売上高



防衛　売上高65億円（+44%）

- 政府の防衛力強化方針により需要が拡大し、大幅に増加

民航　売上高22億円（+30%）

- 機体会社向けの搭載品や、エアライン向けの補用部品が増加

※FY2024Q1より、従来「航空機器」に含まれていた海洋関連機器の業績を「産業機器」へ移管。
FY2024、FY2023の数値、ならびにFY2024/FY2023前年同期比を変更後のセグメント区分に組み替え。

SHIMADZU Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

航空機器についてご説明します。セグメント別の最後です。

事業環境は良好で、防衛は、政府の防衛力強化の方針による需要の拡大、
民間航空は、航空機搭載品や航空会社向け補用部品の需要拡大が継続しております。

売上高は、全体で87億円、前年から25億円増加、プラス40%でした。

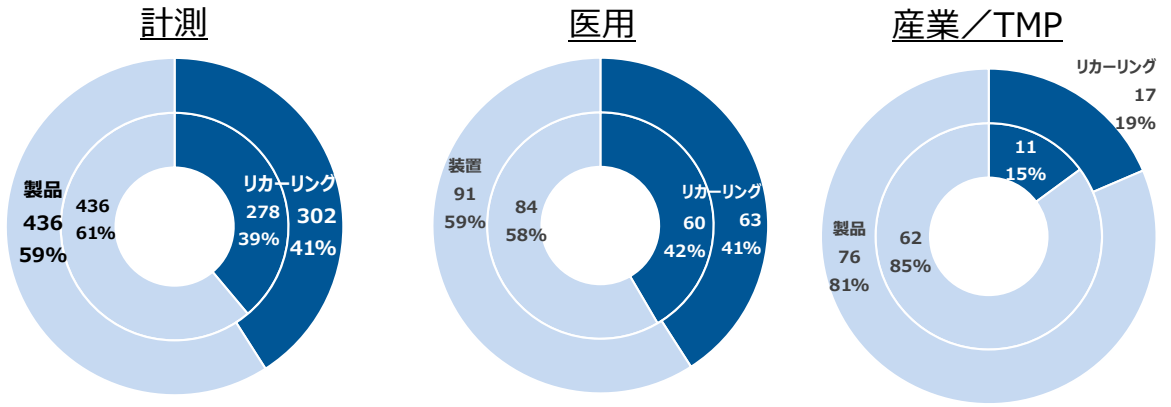
防衛分野は、政府の防衛力強化方針による需要増加を受けて、
前年同期比20億円増加、プラス44%です。

また、民間航空機分野は、航空機の増産に対応し搭載品が増加しており、
加えて、価格改定効果などにより、前年同期から5億円増加し、プラス30%となりました。

リカーリング

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

【計測】売上高302億円･前年比　9%増：LC,MSのメンテナンスサービス増加
【医用】売上高　63億円･前年比　6%増：XTV、血管撮影システムのメンテナンスサービス増加
【TMP】売上高　17億円･前年比57%増：半導体製造装置搭載品のメンテナンスサービス増加



※リカーリング売上高（億円）とリカーリング売上高比率（%）を掲載
※円グラフ外側はFY2024実績、内側はFY2023実績を示す

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

続きまして、リカーリングについてご説明します。

主力の計測では、海外でLCやMSのメンテナンスサービスが増加した結果、
売上高は、302億円、前年同期比9%増加しており、リカーリング比率は41%に伸びております。

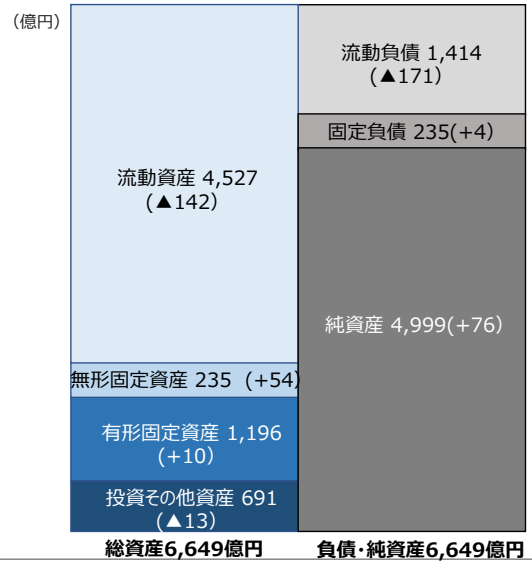
医用は、日本や北米で X線TV、血管撮影システムのメンテナンスサービスが増加したことなどにより、
売上高は63億円、前年同期から６％の増加となりましたが、製品売上の増加率が上回ったため、
リカーリング比率は１ポイント低下し、41%となりました。

産業のTMPは、台湾や韓国で半導体製造装置搭載品のメンテナンスサービスが増加したことで、
売上高は前年同期比57%増の17億円となり、リカーリング比率は19%に伸びております。

貸借対照表

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

■ 2024年6月末総資産 6,649億円（2024年3月末から▲91億円）



資産

流動資産 **▲142億円**

- 現預金減少　▲149億円（配当金支払いなど）

無形固定資産 **+54億円**

- のれん増加　+52億円（Zef社買収など）

負債・純資産

流動負債 **▲171億円**

- 買掛金減少　▲114億円

純資産 **+76億円**

SHIMADZU
Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

続いて貸借対照表をご説明します。

2024年6月末の総資産は、6,649億円と3月末と比較し、91億円の減少です。
流動資産の減少は、第一四半期に特有の配当金の支払いや、売上債権の回収が進んだことが、主な要因です。

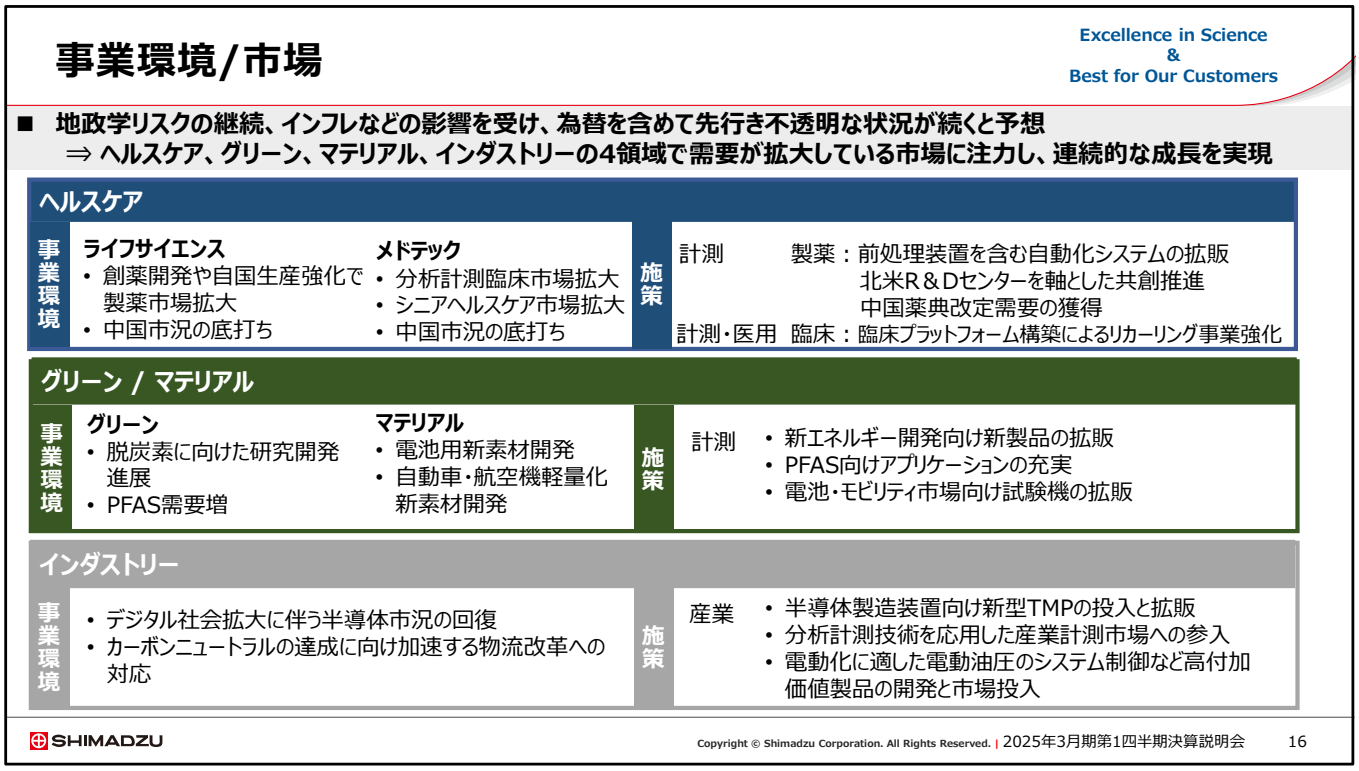
また、無形固定資産が54億円増加していますが、これは2024年4月に買収した
北米のマルチベンダーサービス会社ののれん代が主な要因です。

負債・純資産は、流動負債が買い入れ債務の減少などにより、171億円減少しています。

純資産については、当期純利益と海外子会社の純資産が為替影響を受けて増加したことにより
76億円増加しました。

02 2024年度通期業績予想

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.



まず、事業環境と主な施策についてです。

景況感としては、ウクライナや中東情勢など地政学リスクは継続しており、米国大統領選による為替影響も含めて、先行きは不透明な状況が継続すると予測しております。
このような中、当社は中期経営計画で定めたヘルスケア、グリーン、マテリアル、インダストリーの４つの領域に対し、製品だけでなくソリューションを提供することで顧客ニーズに対応し、連続的な成長を実現してまいります。

ヘルスケア領域は、ライフサイエンス、メドテックの二つの分野を位置付けております。
前者の製薬分野は、創薬開発や自国生産の強化により、市場は拡大すると想定しています。
自動化システムの拡販、注力している北米市場でR&Dセンターを軸とした顧客への密着度の強化とアカデミアとの共創推進、中国では大型設備更新予算の獲得や、薬典改定への取り組み強化を図ります。

また、メドテック分野では、臨床プラットフォーム構築による分析機器の実装と、リカーリング事業の強化を図ります。

グリーン領域は、脱炭素に向けた研究開発がグローバルに進み、環境問題で有機フッ素化合物（PFAS）の規制が強化されるなど、需要が増加しています。環境問題への規制に対応したPFAS向けアプリケーションの充実や、新エネルギー向けの拡販を進めてまいります。

マテリアル領域は、新素材開発が進み、サーキュラーエコノミーの一環として廃棄物を原材料としてリサイクルするなど、材料関連の需要拡大が想定されます。

インダストリー領域は、半導体市場が継続的に市場が拡大する中で、関連需要の取り込みを確実に行っていきます。そのためには、既存製品に加えて、分析計測技術を応用した新製品やソリューションを開発し、産業計測市場への参入を図ります。また、カーボンニュートラルの達成に向けた物流改革に向け、電動化に適した油圧システムなどの高付加価値製品の開発と市場投入を進めていまいります。

事業環境／計測機器の地域別受注

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- **日本はジェネリックやCDMOの投資が活発、北米は大手製薬を中心に回復傾向、インドは製薬の自国生産強化が継続**
- **欧州は臨床向けが増加する一方、官需・アカデミアが欧州議会の影響で予算執行遅れにより減少**
- **中国の受注はFY2023 Q4を底に回復傾向（P18参照）**

国	受注	概要
連結	+4－6%	（参考）中国除くと+10-13%
日本	+10-13%	製薬向け好調。一部価格改正前の駆け込み受注
海外	▲0-3%	（参考）中国除くと+10-13%
北米	+24-26%	製薬向け増加。特定顧客向け回復
欧州	+0-3%	臨床向け増加。欧州議会選挙影響で官公庁・アカデミア向け予算執行に遅れ
中国	**▲20-23%**	・製薬向けは底をうつ。アカデミアが前年の特需の反動などで大きく減少 **・前四半期比（1~3月との比較）では＋20%と回復傾向**
インド	+20-23%	製薬向け好調が継続

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

計測関連の事業環境を受注の観点からご説明致します。

表に記載しておりますように、2024年度第１四半期の円ベースの受注は、中国を除けば
すべてプラスになっております。

日本は、製薬向けが好調で、また、7月に一部製品で価格改正を予定しており、改正前の
駆け込みもありました。

注力市場と位置付けております北米では、製薬向けが増加していることに加え、特定顧客向けの受注が回復しています。これは当社製が再び標準採用されたことによります。

欧州では、臨床向けは増加している一方で、官公庁・アカデミア向けの予算執行が遅れ、売上の
期ずれが発生し、伸び率に影響しました。
懸念されていた中国については、大きく受注が減少しましたが、前四半期比では20%増と回復
傾向がみられております。

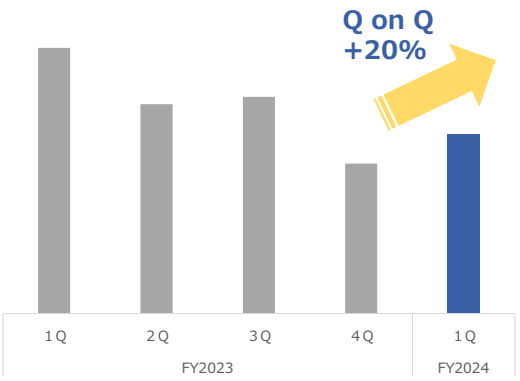
インドは、主に製薬向けが好調で、全地域で最も成長しております。

計測機器／中国（受注）

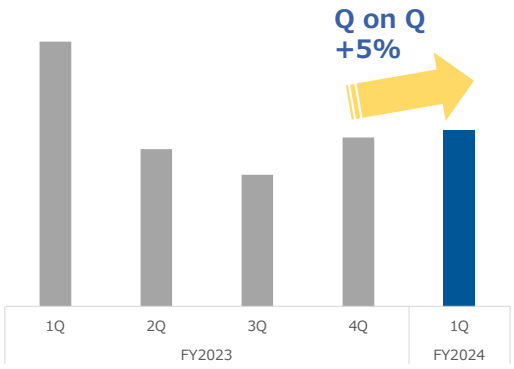
Excellence in Science
&
Best for Our Customers

■ 全体の受注はFY2023 4Qを底にFY2024 1Qは前四半期比で20%増加
■ 製薬向け受注はFY2023 3Qを底に2四半期連続で回復、FY2024 1Qは前四半期比で5%増加

中国計測　受注額四半期推移



中国計測　製薬向け受注額四半期推移

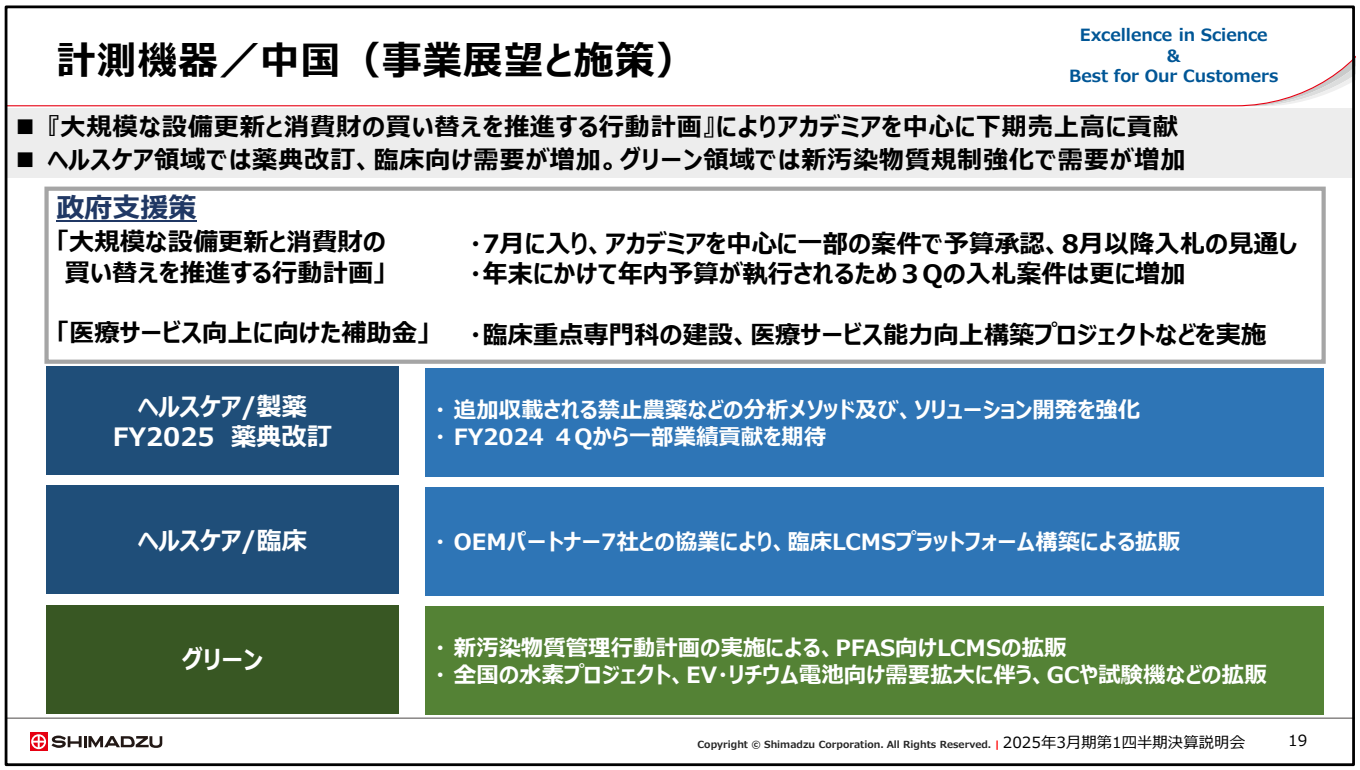


Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

次に、中国の受注動向についてご説明します。

左のグラフは、中国全体の受注額の四半期ごとの推移です。
ご覧のように、当期は、前期2023年度４Qと比較し、20%伸びております。

また、右のグラフでは、低調が続いていた製薬向け受注においても、
2023年度３Qを底に、2四半期連続で、前四半期比で増加しています。
製薬向けは引き合いも増えており、今後も回復基調が継続する見通しです。



計測の中国の事業展望と施策です。

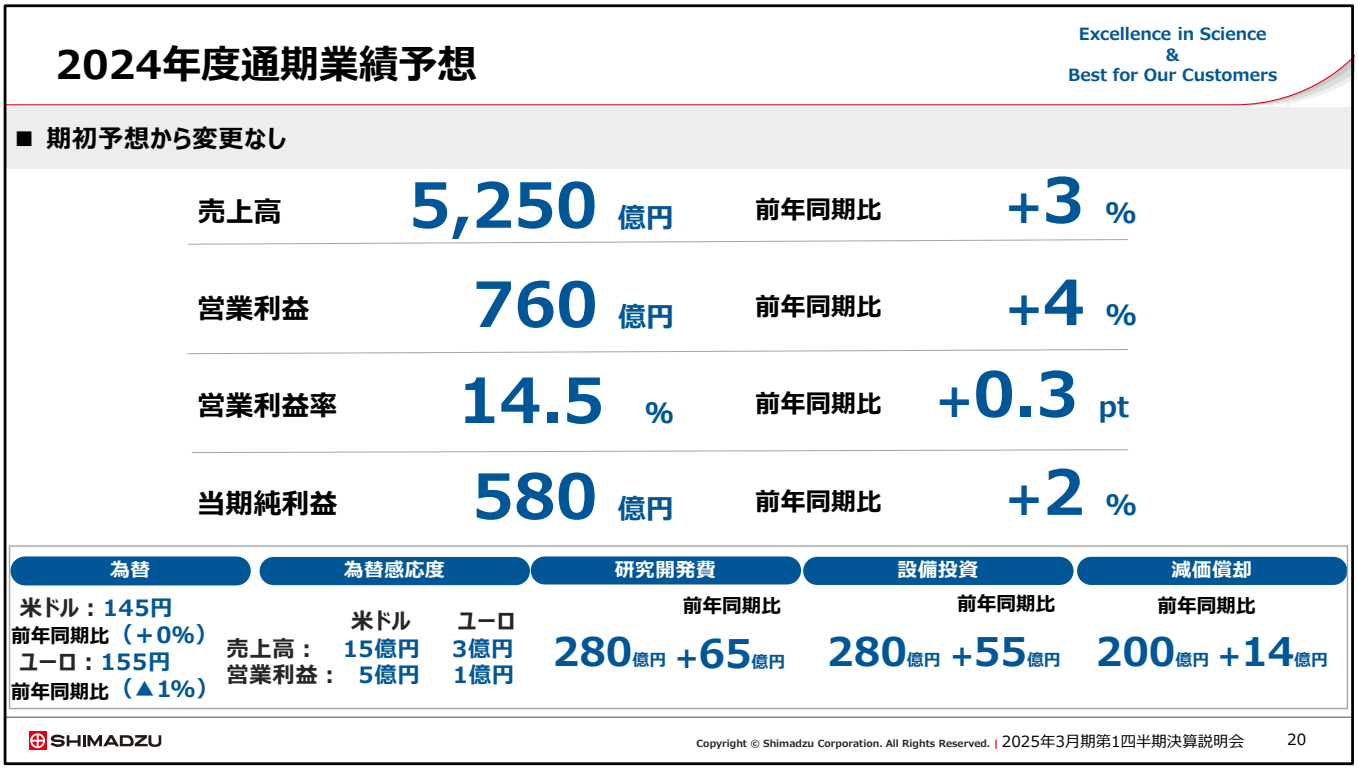
政府支援策として「大規模な設備更新と消費財の買い替えを推進する行動計画」が公表されました。
これは、2027年までに設備投資額を23年比で25%以上増やすことを目標としたものです。
第1四半期には、一部の顧客から地方政府や教育機関への購入申請が行われ、7月に入り、
大学を中心に一部の購入申請案件で批准が開始されています。約8割がアカデミア向けに割り振られると予測されており、当社の総合分析計測機器メーカーとしての優位性が出せると考えています。

また、「医療サービスと保障能力向上補助金」が公布されております。補助金の総額は約3,000億円で、数百件の建設プロジェクトが予定され、需要が喚起される見込みです。

製薬分野に関連しては、2025年の薬典改定に向けて、第4四半期から一部需要が増加
する見通しです。

臨床では、OEMパートナー7社との協業により、臨床LCMSプラットフォーム構築による
装置と消耗品の拡販を行います。

グリーン領域関連では、PFAS、抗生物質、マイクロプラスチックなど新汚染物質の規制強化が進んでいます。それに応じて、新汚染物質のモニタリング体制構築のため、自治体や企業で、分析機器の新規導入が進められると予想しております。



前ページまでの事業環境を受けて、2024年通期業績予想についてご説明します。

2024年度の通期業績予想は、期初予想から変更はなく、売上高5,250億円、営業利益760億円、営業利益率14.5%、当期純利益580億円を見込んでおり、5期連続で過去最高の更新を計画します。

2024年度通期セグメント別業績予想

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

■ 期初予想から変更なし。各セグメントで成長分野、地域で売上高を拡大し、連続的な成長を目指す

FY2024 通期予想

単位: 億円	売上高				営業利益				営業利益率		
	FY2023	FY2024 予想	前期比 増減額	前期比 増減率	FY2023	FY2024 予想	前期比 増減額	前期比 増減率	FY2023	FY2024 予想	前期比 増減
計測機器	3,383	3,420	+37	+1%	575	600	+25	+4%	17.0%	17.5%	+0.5pt
医用機器	723	760	+37	+5%	48	60	+12	+26%	6.6%	7.9%	+1.3pt
産業機器	654	680	+26	+4%	72	80	+8	+11%	11.0%	11.8%	+0.8pt
航空機器	295	350	+55	+19%	37	30	▲7	▲19%	12.6%	8.6%	▲4.0pt
その他	65	40	▲25	▲38%	10	15	+5	+44%	11.4%	23.1%	+11.7pt
調整額	-	-	-	-	▲15	▲25	-	-	-	-	-
合計	5,119	5,250	+131	+3%	728	760	+32	+4%	14.2%	14.5%	+0.3pt

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

2024年度通期セグメント別業績予想についても期初から変更はございません。
主軸の計測機器の通期売上は3,420億円、営業利益は600億円で、営業利益率17.5%を予想しております。

受注残は、前期末から計測・航空が大きく増加しており、それらを売上に転化することで、売上計画の達成は可能と見ております。

03 トピックス

・新製品（計測）
・新製品・ニュース（医用）

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

新製品/計測機器

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

■「分析が不慣れな人でも簡単に操作をしたい」というニーズに対し、簡単操作で安定的にデータが取得できるLCMSの新製品を発売

ヘルスケア　グリーン

高速液体クロマトグラフ質量分析システム「LCMS-TQ RXシリーズ」

<特長>
- 新開発のイオン源の搭載 / 独自の技術で汚れ成分除去
- 全自動診断/校正
- 長期安定稼働によるラボの効率向上
- 消費電力を従来比30%削減

■「抗体医薬の開発における前処理工程を短縮したい」というニーズに対し、業務の安全性や効率アップ、属人性を排除した自動前処理装置を発売

ヘルスケア

抗体糖鎖自動前処理装置「MUP-3100」

*住友ベークライト㈱と共同開発

<特長>
- 煩雑で手間のかかる「前処理」工程を自動化
- 作業時間を２日間から約６時間に短縮
- 抗体医薬品の研究/開発、品質管理の迅速化に貢献

SHIMADZU　Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

中期経営計画でお示ししておりますヘルスケアとグリーン領域でのビジネスの拡大を目指した、計測機器の
新製品についてご説明いたします。

1つ目は、高速液体クロマトグラフ質量分析システム「LCMS-TQ RXシリーズ」です。
従来モデルをベースに、「安定性の高い装置で正確なデータを得たい」「分析が不慣れな人でも簡単に操作をしたい」というニーズに対応した新製品としてリリースいたしました。

本製品の特長は；
・新開発のイオン源の搭載や、汚れ成分を除去する当社独自技術により、長時間安定したデータの取得/運用が可能であること
・測定前に装置が自動的に診断を行い、必要に応じて質量精度等の校正を行うことで、ユーザーの負荷を低減し、いつでも分析に適切な状態を維持できること
・消費電力を従来比で30%削減できること
これら3点になります

2つ目は抗体糖鎖自動前処理装置「MUP-3100」です。

昨今、製薬会社を始め、食品会社や受託分析会社において、大量に分析を行うケースが増えており、手間のかかる前処理工程を短縮したいというニーズがあります。

本装置は、特に「抗体医薬の開発における前処理工程を短縮したい」という要望をもとに、住友ベークライト様と共同で開発し、当社初となる抗体医薬向け自動前処理装置としてリリースいたしました。

従来２日間かかっていた作業を、約６時間に短縮できることが、本装置の特長です。

手作業による分析者の作業ミスや前処理のバラつきを排除し、業務の安定性と効率性を高めて抗体医薬品の研究・開発の迅速化に貢献します。

次にグリーン関連の新製品をご紹介します。

当社は、GX（グリーントランスフォーメーション）を社会価値創生領域の1つと定め、
当該領域における社会課題の解決に注力しています。

そのような中、GX関連で2つ新製品を発売しました。

一つ目は、フランスのトタルエナジーズとポー大学、スペインのオビエド大学と共同開発した、「ELEM-SPOT（エレムスポット）」です。従来、バイオ燃料には、化石燃料とは異なる未知の成分が多く含まれ、効率的な評価・分析手法が確立されていませんでした。
共同開発した、ELEM-SPOT（エレムスポット）は、バイオ燃料の成分特定を可能にするとともに、従来数時間かかっていた分析作業を80%以上短縮でき、業務効率の向上が図れます。

二つ目は、農研機構が保有する特許を活用した温室効果ガスアナライザーです。

従来、温室効果ガスの95%以上を占める、二酸化炭素（CO2）、メタン（CH4）、
一酸化二窒素（N2O）の3成分を同時分析することはできず、分析対象成分の数に応じて
分析を繰り返す必要がありました。
「温室効果ガスアナライザー」は、農研機構保有の特許技術と、複数のカラムと検出器により、
同時分析を可能にしました。

今後も、当社は様々な分析計測技術を提供して、カーボンニュートラルの実現に
貢献してまいります。

新製品・ニュース/医用

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

■ 診療放射線技師および被検者の負担軽減を狙い
被検者の動きを検知する光学カメラを搭載した
X線一般撮影システムを発売

■ 「BresTome」が米FDA認証を2024年5月に取得
（脳研究や各種神経変性疾患の診断を支援）

ヘルスケア

X線一般撮影システム
「RADspeed Pro SR5 Version」

＜特長＞
- 被験者の動きを観察でき、無駄な撮影を排除し、検査業務を効率化

ヘルスケア

頭部と乳房検査用TOF-PET装置
「BresTome」が米FDAの認証を取得

＜特長＞
- 生体活動の微細な変化や詳細な分布を可視化
- がんや認知症の早期診断に貢献

BresTome

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

次に医用機器ついてご説明いたします。

新製品として、X線一般撮影システム「RADspeed ProSR5 Version」をリリースいたしました。

この製品は、被験者が動いた場合に光学カメラが被験者の動きを検知して音と表示で通知するため、スムーズな検査と迅速で確実なポジショニングが可能で、取り直しのリスクが減少します。
この結果、診療放射線技師および被験者の負担を軽減することができ、検査業務の効率化に貢献いたします。

また、頭部と乳房検査用TOF-PET装置「BresTome」が米FDA認証を2024年5月に取得しました。当社は、2021年3月に「BresTome」を発売し、認知症の臨床診断研究、創薬研究に貢献してきました。直近は、認知症治療薬の上市により、脳内のアミロイドの蓄積の有無を調べる検査も増加し、PETの需要も拡大しています。FDA認証取得により、北米の大学との共同研究の推進及びPET装置の拡販を図ります。

以上で、本日の決算説明を終了します。ご静聴ありがとうございました。

SHIMADZU
Excellence in Science

本説明資料に記載の将来の業績に関する内容は、経済情勢・為替・テクノロジーなど様々な外部変動要素により、事前見通しと大きく異なる結果となることがあります。

お問い合せ先：㈱島津製作所
コーポレート・コミュニケーション部 IRグループ
電話：075-823-1673
E-Mail：ir@group.shimadzu.co.jp

補足資料

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

連結業績

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

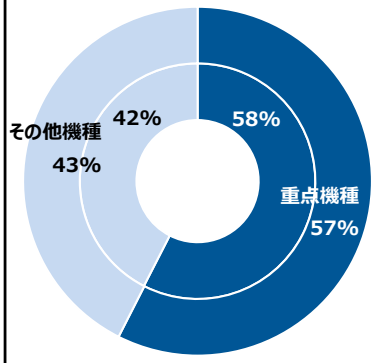
	単位：億円	第1四半期(4月-6月)		前年同期比	
		FY2023	FY2024	増減額	増減率
業績	売上高	1,092	1,169	+77	+7%
	営業利益	132	110	▲23	▲17%
	営業利益率	12.1%	9.4%	▲2.8pt	
	経常利益	157	137	▲20	▲13%
	親会社株主に帰属する当期純利益	111	100	▲11	▲10%
為替	平均為替レート：米ドル(円)	137.40	155.93	+18.53	+13%
	ユーロ(円)	149.50	167.93	+18.43	+12%
	研究開発費	50	68	+19	
	設備投資額	57	42	▲15	
	減価償却費	45	48	+3	

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

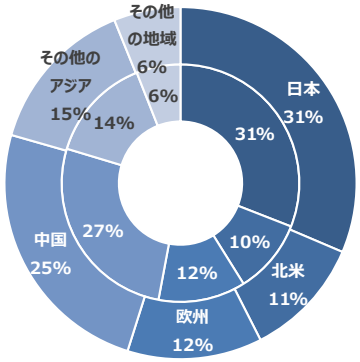
計測機器/各種売上高構成比率（1Q）

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

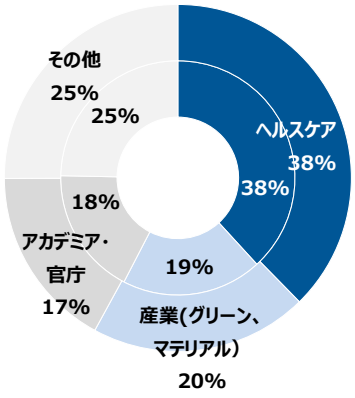
機種別



地域別



市場別



※円グラフ外側はFY2024実績、内側はFY2023実績を示す

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

計測機器/重点機種売上高前年同期比

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

■ 重点機種

LC： 日本、北米、インドで医薬向け増加。中国で大幅減だがQonQでは増加
MS：日本で医薬向け、欧州で臨床向け増加。中国で大幅減だがQonQでは増加
GC：日本、欧州でグリーン向け増加

為替影響を含む	FY2022					FY2023					FY2024
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
重点機種	+2%	+14%	+9%	+25%	+13%	+18%	+13%	+12%	▲2%	+10%	+3%
全体	+1%	+15%	+15%	+20%	+13%	+16%	+10%	+6%	+2%	+7%	+3%

為替影響を除く	FY2022					FY2023					FY2024
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
重点機種	▲9%	▲2%	▲5%	+14%	▲0%	+12%	+8%	+7%	▲10%	+4%	▲6%
全体	▲8%	+3%	+3%	+13%	+3%	+11%	+6%	+2%	▲4%	+3%	▲5%

※重点機種：液体クロマトグラフ（LC）、質量分析システム（MS）、ガスクロマトグラフ（GC）

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

計測機器/地域別売上高

単位 億円	FY2022	FY2023	FY2024	前年同期比		概況
				増減額	増減率	
日本	209	221	232	+11	+5%	・医薬向けで液体クロマトグラフや質量分析システムが増加 ・エネルギー開発を中心に幅広い分野でガスクロマトグラフが増加
海外	408	493	506	+13	+3%	・海外売上高比率は横ばいの69%
北米	71	72	82	+10	+13%	・医薬向けで液体クロマトグラフが増加 ・特定顧客向けの液体クロマトグラフが回復基調
欧州	71	85	91	+6	+8%	・臨床検査向けで液体クロマトグラフや質量分析システムが増加
中国	145	191	181	▲9	▲5%	・医薬、受託分析市場の悪化により、液体クロマトグラフや質量分析システムが減少 ・前年のアカデミアに対する政府支援策の反動減
その他のアジア （インド除く）	62	69	66	▲2	▲3%	・韓国で大口案件の反動で質量分析システムが減少
インド	26	34	40	+7	+20%	・医薬、受託分析向けで、液体クロマトグラフが増加 ・ガスクロマトグラフが新製品効果で増加

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

計測機器/地域別売上高前年同期比

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 日本：製薬向けにLC、MS、グリーン向けに試験機増
- 海外：中国が製薬向け、アカデミア特需の反動で大幅に減少したが、QonQでは増加

為替影響を含む	FY2022					FY2023					FY2024
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
日本	▲3%	+4%	+15%	+8%	+7%	+5%	+10%	▲3%	+6%	+5%	+5%
北米	▲2%	+12%	+20%	+22%	+13%	+1%	+4%	▲4%	+7%	+2%	+13%
欧州	+13%	▲1%	+18%	+28%	+14%	+20%	+27%	+21%	+10%	+19%	+8%
中国	▲14%	+36%	+6%	+49%	+17%	+31%	▲4%	+6%	▲21%	+1%	▲5%
その他のアジア	+37%	+25%	+24%	+18%	+25%	+15%	+20%	+20%	+11%	+17%	+4%
インド	+50%	+22%	+26%	+8%	+23%	+27%	+14%	+32%	+8%	+20%	+20%

為替影響を除く	FY2022					FY2023					FY2024
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
日本	▲3%	+4%	+15%	+8%	+7%	+5%	+10%	▲3%	+6%	+5%	+5%
北米	▲16%	▲9%	▲3%	+6%	▲5%	▲4%	▲1%	▲8%	▲4%	▲4%	▲0%
欧州	+8%	▲8%	+7%	+19%	+6%	+11%	+13%	+10%	▲3%	+8%	▲4%
中国	▲28%	+9%	▲14%	+31%	▲3%	+24%	▲9%	+2%	▲31%	▲5%	▲16%
その他のアジア	+20%	+4%	+4%	+6%	+8%	+10%	+15%	+15%	▲0%	+10%	▲7%
インド	+27%	▲2%	+2%	▲6%	+2%	+20%	+9%	+26%	▲4%	+12%	+6%

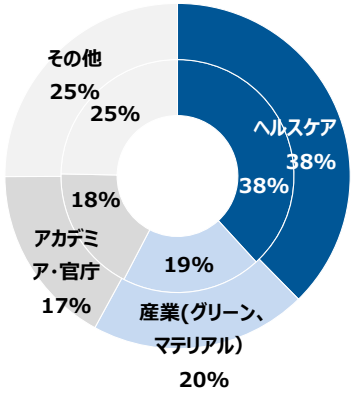
※インドはその他のアジアの内数

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

計測機器/領域別売上高比率（1Q）

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

市場別売上高構成比



市場と主な業界	構成比 FY2023	構成比 FY2024	売上高 前年同期比	概況
ヘルスケア ●医薬品・食品 ●医療機関 ●受託分析業	38%	38%	+1%	・医薬は、日本、北米、インドで増加。中国減少 ・臨床（医療機関）は、北米、欧州で増加
産業 （グリーン、マテリアル） ●化学・素材 ●電機 ●自動車	19%	20%	+7%	・新素材開発向けに試験機が増加 ・新製品のGC2050が化学向けに増加
アカデミア・官庁	18%	17%	▲2%	・日本と北米は堅調 ・欧州は欧州議会選挙後の予算執行遅れ影響 ・中国は前年の政府支援策の反動

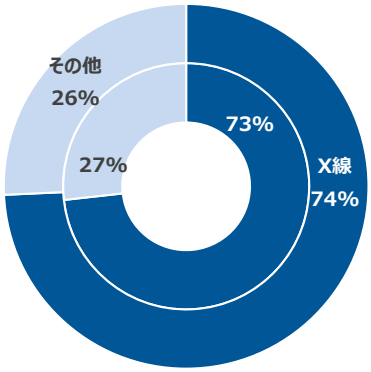
※円グラフ外側はFY2024実績、内側はFY2023実績を示す

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

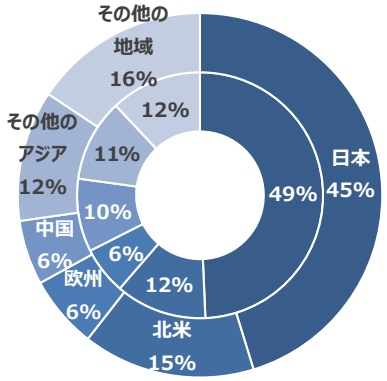
医用機器/各種売上高構成比率（1Q）

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

機種別



地域別



※円グラフ外側はFY2024実績、内側はFY2023実績を示す

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

医用機器/地域別売上高

単位 億円	FY2022	FY2023	FY2024	前年同期比		概況
				増減額	増減率	
日本	94	71	70	▲1	▲1%	・新製品の血管撮影システムや一般撮影システムが増加 ・市況回復の遅れによりX線TVシステムが減少
海外	70	73	85	+12	+16%	・海外売上高比率は、55%と前年同期比4pt増加
北米	21	17	24	+6	+37%	・一部の部材調達難が解消し、一般撮影システムが増加 ・近接型X線TVシステムが増加
欧州	8	9	10	+1	+11%	・東欧向けに血管撮影システムが増加
中国	11	14	9	▲5	▲36%	・市況悪化や腐敗防止強化による入札案件の遅れにより X線TVシステムや一般撮影システムが減少
その他の アジア	13	16	18	+2	+15%	・東南アジアで、X線TVシステムが増加

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

医用機器/地域別売上高前年同期比

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 国内：新製品の血管撮影システムや一般撮影システムが増加したものの、X線TVが減少
- 海外：北米は近接用X線TVが増加。中国は市況悪化や腐敗防止強化による入札案件の遅れにより大幅減

為替影響を含む	FY2022					FY2023					FY2024
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
日本	+13%	+12%	▲3%	+5%	+7%	▲24%	▲20%	+7%	▲17%	▲15%	▲1%
北米	+4%	+52%	+21%	+28%	+26%	▲18%	+11%	▲2%	+0%	▲1%	+37%
欧州	+5%	+61%	+2%	+33%	+22%	+16%	▲7%	+41%	+0%	+12%	+11%
中国	+12%	▲12%	+5%	+23%	+6%	+24%	+38%	+7%	▲5%	+15%	▲36%
その他のアジア	+10%	+16%	+7%	+19%	+13%	+20%	▲28%	+10%	+27%	+3%	+15%

為替影響を除く	FY2022					FY2023					FY2024
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
日本	+13%	+12%	▲3%	+5%	+7%	▲24%	▲20%	+7%	▲17%	▲15%	▲1%
北米	▲12%	+22%	▲3%	+11%	+5%	▲23%	+6%	▲6%	▲10%	▲7%	+21%
欧州	+0%	+50%	▲8%	+22%	+13%	+7%	▲18%	+28%	▲11%	+1%	▲1%
中国	▲6%	▲30%	▲16%	+7%	▲12%	+17%	+32%	+3%	▲17%	+8%	▲43%
その他のアジア	▲2%	▲4%	▲11%	+7%	▲3%	+14%	▲31%	+6%	+16%	▲2%	+5%

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

産業機器/機種別売上高前年同期比

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

■ TMP　　：SPE向けが大幅に増加
■ 油圧　　：小型建機向けが軟調に推移
■ その他機種：自動車用セラミック製造向け工業炉が増加

為替影響を含む	FY2022					FY2023					FY2024
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
TMP	+20%	+22%	+9%	+1%	+12%	▲3%	+0%	▲0%	+15%	+3%	+27%
油圧	▲1%	+1%	+3%	+10%	+3%	+10%	+8%	▲4%	+1%	+3%	▲4%
その他	+17%	+12%	+11%	+24%	+16%	▲2%	+2%	+10%	+11%	+6%	+29%

為替影響を除く	FY2022					FY2023					FY2024
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
TMP	+11%	+11%	▲1%	▲6%	+3%	▲7%	▲4%	▲4%	+6%	▲2%	+17%
油圧	▲6%	▲4%	▲2%	+7%	▲1%	+9%	+7%	▲6%	▲2%	+2%	▲7%
その他	+7%	+1%	+2%	+17%	+7%	▲4%	+1%	+8%	+6%	+3%	+22%

※FY2024Q1より、従来「航空機器」に含まれていた海洋関連機器の業績を、「産業機器」へ移管。
FY2024およびFY2023の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた上で、FY2024/FY2023の前年同期比較においては、前年の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較。

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

リカーリング比率

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 計測　：日本・北米で医薬向け、欧州で臨床向けメンテナンス・サービスが増加
- 医用　：北米で代理店買収によりメンテナンス・サービスが増加
- TMP　：台湾、韓国で顧客カバー率向上により増加

計測	FY2022					FY2023					FY2024
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
リカーリング売上高 前年同期比	▲6%	+5%	+21%	+11%	+10%	+10%	+3%	▲4%	▲2%	+1%	+0%
リカーリング比率	39%	36%	40%	33%	37%	39%	35%	37%	34%	36%	41%

医用	FY2022					FY2023					FY2024
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
リカーリング売上高 前年同期比	▲2%	+3%	+0%	+3%	+3%	▲3%	▲7%	+1%	+0%	▲2%	▲1%
リカーリング比率	36%	32%	39%	30%	34%	42%	34%	37%	33%	36%	41%

TMP	FY2022					FY2023					FY2024
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
リカーリング売上高 前年同期比	▲1%	▲6%	+4%	▲17%	▲4%	▲9%	▲8%	+10%	+36%	+6%	+46%
リカーリング比率	15%	14%	16%	13%	15%	15%	14%	18%	17%	16%	19%

※為替影響を除外

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

産学連携でのイノベーションの創出

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

■ 積極的な共創により、革新的な技術・製品の開発、新たなサービスの社会実装に取り組む

ヘルスケア　東北大学　2024年3月

**「島津製作所×東北大学
超硫黄生命科学共創研究所」を設置**

左から、東北大学の赤池孝章教授、植田拓郎理事、当社社長山本

研究内容

- 生体の老化メカニズムに関連する「超硫黄分子」と呼ばれる物質の特性を明らかに
- 様々な疾患の診断や治療法の確立、健康を増進する機能性食品の開発

当社の役割

- 多くの種類の超硫黄分子を一斉に分析する手法の開発
- 当社製イメージング質量顕微鏡「iMScope」を用いた超硫黄分子の臓器内分布の観察

ヘルスケア　フィリピン高等化学研究所 Philippine Institute of Pure and Applied Chemistry　2024年7月

食品安全と環境分析の共同研究を推進

調印式の様子

研究内容

- フィリピン高等化学研究所は、政府関係機関、中小企業等を対象として化学分析、研究、訓練、開発等のサービスを行っている
- 当社アジア子会社（SAP）と同研究所が食品安全と環境分析に関して共同研究を推進

当社の役割

- 「Shimadzu World Lab Network」にPIPACを招待。他の島津の協業者らとの連携を推進
- 製品貸与などにより、食品及び環境汚染物質の高感度分析のための技術支援

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.